東奥日報社提供

東　奥　日　報
2019年（平成31年）3月12日（火曜日）（25）

防災対策の重要性
市民ら100人再確認
八戸でフォーラム

八戸工業大学と八戸市は11日、同市沼館の市津波防災センターで「3・11防災フォーラム」を開いた。市民ら約100人が専門家の発表に聞き入り、災害対策の重要性を再認識した。

八工大は東日本大震災発生から約1カ月後の2011年4月に「防災技術社会システム研究センター」を設立、市などと定期的にフォーラムを開いている。今回は昨年9月に発生した北海道胆振東部地震から学ぶ―をテーマとした。

室蘭工業大学の木幡行宏教授は今回の地震で発生した斜面崩壊の特徴を解説。「厚真町周辺はかつての噴火によって生じた火山灰層があり、その層が滑り落ちて大きな被害を及ぼした可能性がある」と指摘した。

総合建設コンサル・日本工営札幌支店の橋本和明氏は市街地で発生した地盤の液状化現象の被害を報告。「造成した宅地など人工的な地盤でも起こりうる。今後は計画から設計、工事の各段階で対策が必要になる」と語った。

フォーラムではほかに、市防災危機管理課の職員が、災害時の自治体間の連携体制を説明、八工大の研究者らが災害対策や防災教育の必要性を訴えた。

（工藤俊介）

市民らが防災意識を高めたフォーラム

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」